



'71年度学園案内

京都精華短期大学

男女共学

比叡の秀峰を東に配し宝ヶ池盆地の西北に位置する本学は 山々の緑にかこまれ 清澄な空気のなかにある 京都の新しいシンボル・国立京都国際会館を南東にのぞむ 閑静な洛北の地は 学問の場として最適である

この大学のあたりは素朴な野と山であった。ブルドーザーが山を削り、野を埋めていったとき、山は痛みに泣いているようであった。やがてその人工の岩壁は、人間のにおいを吸収して、深い色をおびた。一人の若者がペンキでこれにKINOとかいた。もう一人の学生はForeverと記し、そしてまた他の者がLOVEとつけ加えた。去年の大学祭のときのことである。この字は、歩道の大きな絵とともに、まだ消えずに残っている。そしてこの大学を訪れる芸術家たちは、「この壮大な崖は、残さなければならない」、という、はじめてこの山に語りかけ、そしてこの野の空気を人間の色に染めたみんなは、去る三月、ここを巣立っていった。そのとき、「たった紙切れ一枚」という既成の卒業式のイメージに、どう挑戦するか、ということについて、教職員と学生たちとは、何回となく話し合った。卒業証書は褐色の仔牛の皮に、金文字で印刷したものにするに決め、つぎのことが選ばれた。

あなたが京都精華短期大学において
友愛の精神を養い
本学所定の学科目のすべてを履修されたことを
證し
あなたの前途を祝福してこの證書を贈る
それにはまたDIPLOMA(卒業證書)と頭書して、つぎのように英文をもって記された。

This is to certify that you have taken part in the community activities of Kyoto Seika Junior College in fostering fellowship and have finished

all the courses which this college requires for graduation.

We present this diploma to you with our hearty congratulations.

We wish you all the best for the future.

この日英両文の卒業證書には、学長のほかに、英語英文科 柳島彦作、美術科 伊谷賢蔵の二教授が、それぞれの科を代表してサインした。そして卒業生の名が、英文の方には、Mr. SABURO TAKAGIとか、Miss YOKO FUKUDAというように、印刷された。この卒業證書が贈られた日の風景を、京都の新聞は大きく報道した。それには伊谷賢蔵教授が、学生といっしょに、この證書をみている写真が掲せられたが、これは同教授の元気な姿を撮した最後のものとなった。式の日の後、いくばくもなくして、われわれは、この一代の達人を失ったのである。こうして、この大学は、まだ、ようやく三年目を歩いているにすぎないのだが、すでに語りうる多くの歴史をもった。しかしそれは、けっきょく現代におけるヒューマンイズムの実際を、この大学において、つくりあげるという目的のもとに、いとなまれた歴史であった。思想と体制とは、与えられるべきものではなくて、みんなが、いっしょになって創り上げていくものである。卒業證書に「友愛の精神を養い」と記されたのは、友愛の精神ヒューマンイズムに満ちた自由自治の大学社会をつくるのに、あなたはよき働きをされた、ということを現わすためであった。卒業していった学生たちは、多く、職についた。

しかし、何かというと、この崖のある大学へやってくる。旧師の教室にあらわれる者、ただ事務室へ話しにくるだけの者、アッセンブリ・アワーの講演に顔を見せる者、など。

兵庫県のある遠くの学校の画の先生になった人は、この四月、「私のはじめて貰った月給からです。」といっって、「千円也」を送ってくれた。専攻科にいる数人の学生は、アメリカの大学に入学の願書とともに、スカラシップ(奨学金)を求める書類を出した。やがてO.Kの返事がある筈である。またある者は、四年制大学の三年に編入することをやめて、ここで先生の講義の手伝いをしながら、しばらく歴史の研究をつづけます、という。それもよろしかろう。

いま、この大学は、六百五十名の学生と三十八名の専任教員と、十五名の職員とをもって構成されている。それは数千、数万の学生を擁する巨大大学に比べると、まことに小さいが、しかしそれだけに、山麓の村のように、みんながたがいに知り合い、「群衆の中の孤独」といった状況から救われているのである。社会のなかで、その存在が認められていることは、人間として尊ばれるための必須の条件である。こうして、われわれは来る三月には、また二百七十名の卒業生をおくり、そして四月には、新しい諸君を、大学創造の仲間として迎え入れようとしている。それは、どのような人たちであろうか。

学長 / 岡本清一



英語英文科

セクレタリー(秘書)コース

貿易英語コース

ガイドコース

英米文学コース

専攻科

美術科

絵画コース

デザインコース

ヴィジュアル・デザインクラス

クリエイティヴ・デザインクラス

染織コース

専攻科



教員紹介



岡橋 祐教授
英文講読、英米文学演習担当



宇田佳正助教授
英作文、英文講読担当



吉田一雄教授
英文法・英語学担当



鈴木隆一教授
図書館資料論、
参考業務及び
演習担当



千阪靖朗教授
哲学、教育原理、フランス語担当



小野 修教授
英米思想史、
オーラル・イングリッシュ担当



三木直之教授
保健理論、体育実技担当



橋本重郎教授
生物学担当



宮本正清教授
文学、フランス語担当



柳島彦作教授
英作文
ガイド実践担当



E・シファート教授
英詩、オーラル・イングリッシュ担当



小林牧子専任講師
社会学、教育社会学担当



笠原芳光教授
倫理学担当



岡本清一教授
政治学、英国史担当



長谷川治清専任講師
ガイド実践、英語音声学、英作文担当



鶴見貞子助教授
英米文学、
オーラル・イングリッシュ担当



金田辰弘教授
油絵、
素描担当 二紀会委員



今村 綾教授
英文講読担当



清水善三教授
美学、日本美術史担当



野上芳彦教授
心理学、教育心理学担当



辻野 功助教授
歴史担当



芝田 耕教授
油絵、素描担当 独立美術協会会員



斉藤 博助教授
油絵、素描担当
行動美術協会会員



松味利郎助教授
自然研究、
ヴィジュアル・デザイン担当
日宣美会員



松谷昌順専任講師
材質研究、素描I担当



高島 寛専任講師
材質研究、クリエイティブ・デザイン担当

新道弘之専任講師
染色デザイン担当



麻田脩二助教授
染色基礎デザイン担当



潮 隆雄助教授
織デザイン担当



酒井政雄教授
レタリング、ヴィジュアル・デザイン担当
京都アド・アートディレクターズクラブ委員



吉富康夫助教授
クリエイティブ・デザイン担当
色彩構成



坪内成晃専任講師
自然材質研究、素描I担当